

公開講座

「アートと発達支援—発達障がいとアート」

連続公開講座vol.6

日 時:2018年11月17日(土) 13:00~14:30
場 所:甲南大学岡本キャンパス 1号館131教室
講 師:山口 未樹(NPO法人ポパイ理事長)
服 部 正(甲南大学文学部准教授、人間科学研究所兼任研究員)
大西 彩子(甲南大学文学部准教授、人間科学研究所兼任研究員)



甲南大学人間科学研究所では、「アートと発達支援—学校から地域社会へ」をテーマとするこの研究教育プロジェクトに必要な知見を得るために、特定非営利活動法人ポパイ(名古屋市)で理事長として障がい者の創作活動を仕事にするための支援をされている専門家を招いて公開講座を開催しました。

今回の公開講座では、山口未樹先生にアート、クラフト、ダンス、音楽など障がい者の生み出すもの、表現する行為を“仕事”とするために、NPO法人ポパイで試行錯誤をされた経験についてご紹介いただきました。そのうえで、障がい当事者、その家族、職員、社会へのアプローチという観点から、障がい者の創作活動を支援するために、どのようなアプローチが有効かについて意見交換をしました。

(文責:大西 彩子)

これからの活動

公開研究会

子どもの哲学in甲南大学2019冬

日 時:2019年1月12日(土)15:00~16:10
会 場:甲南大学18号館3階講演室
対 象:小学1年生~6年生
企 画:川口 茂雄(甲南大学文学部)
講 師:川崎 惣一(宮城教育大学教育学部)

公開研修会

第16回KIHSワークショップ

「タッピングタッチーホリスティックケアの実践とリサーチー」

日 時:2019年1月27日(日)9:30~16:30
会 場:甲南大学18号館3階講演室
企 画:福井 義一(甲南大学文学部)
講 師:中川 一郎(大阪経済大学人間科学部)

公開講座

子育てライブラリー

日 時:2019年2月21日(木)10:00~12:30
会 場:甲南大学18号館3階
企 画:北川 恵(甲南大学文学部)
講 師:岩本 沙耶佳(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員)

公開研究会

次世代育成を含むライフプラン形成の促進を目指す
実態調査・実践的研究・施策検討の中間報告

日 時:2019年2月28日(木)15:30~17:30
会 場:甲南大学18号館3階講演室
企 画:北川 恵(甲南大学文学部)、森 茂起(甲南大学文学部)
告 白:足立 泰美(甲南大学経済学部)
北川 恵(甲南大学文学部)
中里 英樹(甲南大学文学部)
野崎 優樹(甲南大学文学部)
前田 正子(甲南大学マネジメント創造学部)
森 茂起(甲南大学文学部)

シンポジウム

甲南大学公認心理師養成センター設立記念シンポジウム
「公認心理師の未来と展望:公認心理師の学びと
今後の職域について」

日 時:2019年3月10日(日)13:00~16:00
会 場:甲南大学5号館511講義室
企 画:富樫 公一(甲南大学文学部/甲南大学公認心理師養成センター所長)
講 師:山下 一夫(鳴門教育大学学長)
中尾 和久(甲南女子大学人間科学部)
子安 増生(甲南大学文学部)

甲南アトリエ

「たくさんの泡で絵を描こう！」

日 時:2019年3月17日(日)10:00~12:00
会 場:甲南大学18号館3階講演室
企 画:中谷 裕子(甲南大学大学院人文科学研究科)
服 部 正(甲南大学文学部)
講 師:松田 麻美(美術専門家)
中谷 裕子(甲南大学大学院人文科学研究科)

公開講演会

差別する心といかにして向き合うか

日 時:2019年3月26日(火)14:00~16:00
会 場:甲南大学18号館3階講演室
企 画:北川 恵(甲南大学文学部)、森 茂起(甲南大学文学部)
講 師:池上 知子(大阪市立大学文学研究科/副学長)

発行年月日:2019年2月27日

今年度のニュースレターをお届けします。

今年度も、「次世代育成」や「子ども・子育て実践」を大きなテーマとして、地域の方々に参加していただける実践活動や子育て支援活動に注力してまいりました。

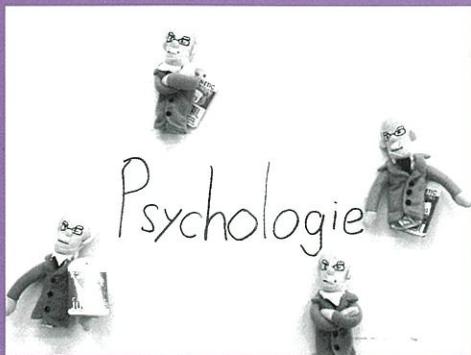
今号は、その活動内容報告となります。

年度内に開催予定の四件を除く、七件について、企画者(あるいは講演者)の先生にご報告いただいています。ご味読ください。



編集後記

今号が平成最後のニュースレターとなります。今年度は、震災や台風や豪雨など自然災害の多い1年でしたが、何とか研究所としての活動を無事に終えることができました。新しい元号になりましたが、一層邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。





活動報告

●2018年度の活動

公開講座

第9回 お父さん・お母さんのための子育て応援講座 「子どもの安心基地になるために」

日 時:2018年5月17日(木)10:30~12:00(受付開始10:00~)
場 所:甲南大学18号館3階講演室
講 師:北川 恵(甲南大学文学部教授・人間科学研究所所長/臨床心理士)
スタッフ:岩本 沙耶佳(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員)
甲南大学大学院生・学部生6名、託児担当者2名
参 加 者:28名(うち、大人19名、子ども9名(託児6名)/保護者同室3名)

子どもは、お父さん・お母さんが「安心基地」になってくれることで、不安なときは信頼できる人を頼りながら、自分でいろいろな挑戦をすることができるようになります。本講座は、そうした関係を築くうえで大切なポイントをお伝えするために、毎年開催しています。質疑応答では、子どもの気持ちに寄り添うことの実際問題について、具体的に困った場面をあげながら、たくさんの質問をしていただきました。日々、子どもに向かって関わる親にも「安心基地」が必要です。今年で10年目を迎える「親子がホッとつながるグループ」にも多くの方に参加申込をしていただきました。来年度の子育て応援講座は、2019年4月末の開催を予定しています。

(報告者:北川 恵・岩本 沙耶佳)

第10期 親子がホッとつながるグループ2018

日 時:〈前期〉2018年6月14日から8月2日、
〈後期〉2018年10月4日から11月22日、
いずれも毎週木曜日(全8回)10:00~11:30
場 所:甲南大学18号館演習室2(プログラム)/講演室(託児)
実施責任者:北川 恵(甲南大学文学部教授・人間科学研究所所長/臨床心理士)
ファシリテーター:〈前期〉岩本 沙耶佳(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員/臨床心理士)
〈後期〉鶴本 容子(甲南大学大学院人文科学研究科博士後期課程/臨床心理士)
甲南大学大学院生・学部生8名
子育てライブラリー/託児担当者2名
参 加 者:母親6名、子ども10名

「親子がホッとつながるグループ」は10年目の開催となり、前期と後期の2期に分けて、「安心感の輪」子育てプログラムを行いました。小さな子どもにとっては養育者に安心感を与えてもらえることがとても大切です。しかしながら親にとっては、忙しくて余裕が無かったり、しつけとの兼ね合いで困ったりすることもあります。そうした実際問題も含めて、子どもとの関係をプログラムに沿って振り返りました。参加者からは、「自分の課題がわかつて、育児の見通しがたった」「子どもや自分について振り返ることは、自分の安心感にもつながった」「自分で考え、話していく必要があることがあらためて確認された。」(文責:森 茂起)



来年度も同様のスケジュールで開催する予定です。参加者募集を年度初めに行いますので、ぜひご参加・お問い合わせください。

(報告者:北川 恵・岩本 沙耶佳・鶴本 容子)

子育てライブラリー2018

〈第1回〉

日 時:2018年5月17日(木)
場 所:甲南大学18号館3階共同研究室Ⅰ
スタッフ:甲南大学大学院生・学部生6名兼託児担当者2名
参 加 者:6名

〈第2回〉

日 時:2018年12月6日(木)
場 所:甲南大学18号館3階講演室
スタッフ:甲南大学学部生4名兼託児担当者1名
参 加 者:3名

人間科学研究所では子育て支援の一環として、絵本や紙芝居、育児関連の本を読むことができる場所を地域の子育て中の皆様に開放する「子育てライブラリー」を開催しています。昨年度から活動を開始し、2年目を迎えました。今年度は、親子関係支援グループ(子育て応援講座および親子がホッとつながるグループ)と同時に開催し、絵本の読み聞かせを行いました。スタッフが絵本を読み始めると、子どもたちは真剣に聞いていました。子育てライブラリーは、次年度も継続予定です。



次回は、2019年2月21日(木)に開催します。当日は、大型絵本や紙芝居の読み聞かせの時間も予定しています。また、親子が一緒に楽しめる絵本が増えましたので、お気軽にご参加いただきたいと思います。

(文責:北川 恵・岩本 沙耶佳)

シンポジウム

本音で語ろう! これから施設養育と里親養育

日 時:2018年9月29日(土)13:00~16:00
場 所:甲南大学8号館1階 811教室
企 画:森 茂起(甲南大学文学部)
講 師:藤林 武史(福岡市子ども総合相談センター所長)
星野 崇啓(さいたま子どものこころクリニック院長)
貝田 依子(児童養護施設三光塾 主任指導員・FSW)
榎本 匡笑(兵庫県里親会連合会副会長)

昨年度、「新しい社会的養育ビジョン」が発表され、社会的養護の実践家に大きなインパクトを与えた。施設養育から里親養育に大幅にシフトすることを含むその内容は、社会的養護の現場に不安をもたらしたのは否定できない。本研究会は、施設養育と里親養育のそれぞれに関わる実践家が集い、現在の社会的養護が立つ地點を確認し、今後の展望を開いたために開催された。台風が近づきつつある中で開催されたため参加者数こそ比較的少なかったが、趣旨通り「本音」で議論が交わされ、施設、里親のどちらの実践者からも参加してよかったですと高い評価が寄せられた。「施設か里親か」の選択ではなく、両者の連携によってより良い「社会的養育」を実現する必要があること、そのための対話を重ねていく必要があることがあらためて確認された。(文責:森 茂起)

甲南アトリエ

「第7回親子孫子で楽しむアート~型染めをしてみよう」

日 時:2018年10月6日(土)10:00~12:30
場 所:甲南大学18号館3階講演室
企 画:内藤 あかね(甲南大学人間科学研究所/客員特別研究員)
講 師:棕田 三佳(美術家)

「第8回親子孫子で楽しむアート~羊毛で造形してみよう」

日 時:2019年1月5日(土)10:00~12:30
場 所:甲南大学18号館3階講演室
企 画:内藤 あかね(甲南大学人間科学研究所/客員特別研究員)
講 師:棕田 三佳(美術家)

今年度、甲南アトリエの事業として2回のアート・ワークショップを行ったので報告する。

「第7回親子孫子で楽しむアート」は、当初7月25日開催の予定だったが、西日本豪雨の影響により中止となった。この回の「型染めをする」というテーマは、最夏の開催に合わせて、涼感のある麻布に染色できるようにと講師の棕田三佳先生が考えられたものである。上質の麻に意匠を施す体験を楽しみにしている方もいらしたであろう。企画者としてはまだ日中暑い時期に体験の機会を提供できればと思い、棕田先生には無理をお願いして10月6日に順延とした。ところが、今度は台風25号の影響で開催の可否が心配された。幸運にも天気が落ち着き、予定通りに執り行うことができた。2018年は自然災害の多い年だったが、その影響をまともに受けた格好である。(これを機に、KIHISとして気象警報発令時のワークショップ開催の成否基準について、広報時から予め参加希望者に周知しておくという方針が決まった。)参加者は2歳児から中高年まで幅広く、近隣の学童保育所の小学生による集団参加もあり盛況であった。

次の「第8回親子孫子で楽しむアート」は正月明けの開催になった。年明けの慌ただしい時期でもあり、参加者は前回と比べて少なめだったが、未就学児から成人まで幅のある年齢層の方が集まった。真冬の開催であり、温かさを思わせる羊毛を使った造形は季節に合う制作テーマでもあった。新規参加の方もリピーターの参加者も意欲的に制作に打ち込まれ、2時間半はあっという間に過ぎた感があった。この回は学生スタッフの3名に準備や制作に携わっていただいたので、ワークショップの運営がスムーズになっただけでなく、若々しいコミュニケーションが生まれ、雰囲気づくりに貢献していただいたと思う。「親子孫子で楽しむアート」では、異年代の人々がアートを介して交流し、普段とは違った体験をする機会を提供するということを主目的の一つとしているので、その点からも参加者には望ましい環境でワークショップを行えたのではないだろうか。

さて、各ワークショップでどのようなアート制作が行われたかを記しておきたい。型染めの回では、棕田先生が染色用に織られた麻布と、型染めに必要な渋紙や染色用の絵具をご用意ください。普段ランチクロスなどに使っている麻とは肌理も張りも違う染色用の生地は、着物の反物を扱うような手触りであった。型染め自体は、手芸店などで売っているステンシル用品を使って簡単にできる手法であるが、今回型を切り抜くために使用した渋紙は、和紙を柿渋で貼り合わせた耐水性のある厚手の紙で、簡単に入手できる物ではないし、若い人には日本の伝統的な染色方法の一つを知る学びの機会になったと思う。型紙も伝統的な文様が予めカットされたものが多数用意してあって、子どもの参加者も喜んで使っていた。既製の型紙であっても自分なりに柄を組み合わせ、色や配置を工夫するところから始めて、徐々に描きたいものを絵具で描き加えてみたり、麻だけなく葉書に型染めをしてみたりと、型にはまらない制作ぶりを展開していた。一方成人の参加者にはオリジナルな意匠を考え型紙を起こすところから始めた人もいて、専用のカッターを使って細かい作業に挑んでいた。制作を終えた後、完成した作品を会場のホワイトボード一面に掲示して参加者一人一人の感想を聴くシェアリングの時間をもったが、子どもであっても自分が制作過程で考えていたことや苦労した点、出来栄えに対する気持ちなどをきちんと話してくれて、お互いの感想を聞くことにより、ただ作品を見るだけなのとはまた違った味わい深い鑑賞の時間になっていた。

羊毛による造形の回では、各テーブルに配置された色とりどりの羊毛の束の中から、各参加者が自由に羊毛を手に取って千切ったり広げたり丸めたり混ぜ合わせたりしながら発泡スチロール製の球や卵型の球、円盤、コルクボードなどの土台に貼っていき、好みのデザインを施していく。貼ると言っても糊で貼っていくのではなく、いわゆる「羊毛フェルト(=ニードルフェルト)」という手芸の手法で、専用の針

で羊毛を突き、土台に差し込んでいくのである。手順としてはシンプルだが、地道な作業の繰り返しで、筆者は低年齢の子どもには飽きがくるのではないかと危惧していた。しかし、羊毛という素材は発色がよく、絵具で色を混ぜるようにいろいろな色を作れたり、指先でいろいろな形に変えることができたりと思いのほか可塑性があり、参加者の仕事ぶりを見ると取り組みやすい素材のように思われた。土台選びの段階では卵型の人気が高かったが、同じ卵型を使っても抽象的な柄を作つて造形を進めた人もいれば、干支でもあるイノシシを作つて家族に背景を作つてもらつた人もいた。友人同士で参加された人が各自の作品を作つていたら、そこにイメージ的なつながりを見出しても一つの作品のようになつたという現象も起きた。ワークショップの面白さは、単に技術を学び、制作機会を得るという限定されたものではなく、そこに集つた人々の間で起つる様々な現象を参加者が発見したり、意識的/無意識的に作品に採り入れたりできることではないかと思う。

2回のワークショップにおいて、棕田先生はデモンストレーションをされたり、各テーブルを回つて参加者のサポートをされたりと、フットワーク軽く動き回つておられた。先生のご尽力でクリエイティブな時間を参加者に提供できたことを心より感謝申し上げたい。



(文責:内藤 あかね)

公開講座

「いざ」という時のトラウマ&ストレス対策塾

日 時:2018年10月6日(土)、10月13日(土)、10月20日(土)10:00~11:30
場 所:甲南大学2号館2階222講義室
講 師:大澤 香織(甲南大学文学部)



2018年度甲南大学秋期公開講座『「いざ」という時のトラウマ&ストレス対策塾』が、10月6日(土)、13日(土)、20日(土)の3日間にわたつて開催されました。これは、トラウマによって生じるストレスとそのストレスへの対処法だけでなく、「過去の記憶を思い出す」ことに対する捉え方、身近にいる家族や友人・知人がトラウマに苦しんでいる時の対応について、一般の方々が学び、考えてくださるべきかけになればという思いから企画・開催されたものです。

講座のタイトルにある「トラウマ」という単語のインパクトから、一般の方々に警戒されてしまう懸念も少なからずありましたが、神戸市や西宮市などから95名の方々が本講座を受講してくださいました。受講された方々はとても熱心に講義やワークに参加してくださいました。質問や感想も活発に挙げてくださいました。講座終了後には、「3回じゃ足りない。もっと学びたい」「今度は実践的なものも行ってほしい」という声も寄せられ、トラウマ体験者への理解と援助に強い関心を持っていただけに、企画者側としては大きな喜びを感じております。

「トラウマとなるような出来事を体験した人」と「そうではない人」の垣根を超え、互いに安心して支え合えるコミュニティの実現のために、今後より多くの方々がトラウマに関する正しい知識や対処法を学び、かつ実践もできるような機会を提供していきたいと考えております。

付記:本講座は、人間科学研究所の活動の1つとして、また、JSPS研究費(18K21520)の助成を受けた研究の一部としても行われました。

(文責:大澤 香織)